

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和3年度)

施設 の 名 称	宮城県さくらハイツ
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 令和3年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
令和3年4月 ~ 令和8年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県さくらハイツ	
所 在 地	宮城県	
設 置 年 月	昭和23年12月	
根 拠 条 例 等	母子生活支援施設条例 母子生活支援施設条例施行規則	
設 置 目 的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構 造	鉄筋コンクリート造4階建て
	内 容	事務室、相談室、多目的室、保育室、母子生活居室等
開 館 (所) 日	通年	
開 館 (所) 時 間	24時間	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・母子生活支援施設条例第3条各号に掲げる業務 ・支援施設の維持管理に関する業務 ・その他、知事が別に定める業務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前 年 度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	240 人	223 人	206 人	85.8%	92.4%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前 年 度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和3年度) (A)	前 年 度 (令和2年度) (B)	評価対象年度 (令和3年度) (C)		
県指定管理料	64,617	63,826	64,617	100.0%	101.2%
利用料金収入				#DIV/0!	#DIV/0!
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	64,617	63,826	64,617	100.0%	101.2%

(2) 支出

人件費	53,150	50,540	49,775	93.7%	98.5%
施設管理費	5,430	6,346	6,758	124.5%	106.5%
事業運営費	6,037	6,105	7,513	124.4%	123.1%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	64,617	62,991	64,046	99.1%	101.7%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	835	571	#DIV/0!	68.4%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和3年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		評価	県の評価 【施設所管課記入】		評価
	正規	非正規	評価	評価		評価	評価	
①管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし、有資格者・社会福祉経験者を配置。 職員研修はオンラインで受講。年間22回、延べ26人参加。母子生活支援施設関係・DV関係・心理療法研修など専門的知識の習得に努め資質能力の向上に努めた。 退所後の安心した地域での生活のためにアフター支援員を配置し職員体制を強化し支援に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 最低基準の職員配置基準を満たし社会福祉士、精神福祉士、公認心理士、保育士、臨床発達心理士などの資格を有し利用者のニーズに対応できるよう支援に努めている。 母子の課題は多岐にわたり専門的知識や対応が求められ、職員会議で情報を共有、関係機関とカンファレンスや検討会を開催。オンラインによる研修への参加や必要な情報を共有し資質向上に努めた。 アフター支援員を配置し他職種と連携し切れ目のない支援に努めている。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあっている。 複雑多岐な支援課題に対応できるよう、所内における情報共有及び関係機関と連携している。 職員研修については、各種研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めている。 また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。 	S	
人員体制	正規	8人	非正規	7人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染予防として消毒などの衛生管理に万全を期し徹底した管理に務めた。 退所後の居室リフォーム、建物・備品関係の修繕、調整など18件実施。 遊具の点検は担当者を決め毎月行い法令で定められた期日通り定期的実施。 全館の排水管の詰り水漏れ防止として高圧洗浄や共有スペースのワックス掛けを実施 経年劣化に伴う設備の確認と改修に努めた 		<ul style="list-style-type: none"> 職員と利用者が共に施設内の美化を意識し環境整備に努めた。感染防止について利用者に情報を提供し注意喚起を徹底し施設全体で取り組んだ。 安心して生活できるよう消防設備の点検など法令に基づいた管理を行いメンテナンスなど定期点検を実施した。 経年劣化に伴う修繕が予想され早期に対応し快適な住環境に努めた。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 職員、利用者共に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をはじめ、日常的な清掃を行い、施設内のより良い環境づくりに努めている。 施設の維持管理に関して、法令に基づき、点検等を十分に実施し、入所者の安全が確保されるよう、十分な環境整備に努めている。 	S	
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営・事業計画に従い実施した。 母親への支援(4239件 前年比81%) 児童への支援(3448件 // 116%) 保育支援(保育室利用延べ:942人 // 82%) (保育園利用児の支援延べ:63人 // 110%) 心理支援(678件 // 115%) 個別対応支援(母・児童:1064 // 103%) 公的機関連携(237件 // 110%) 退所者支援(母:743件 子:76件 // 140%) 		<ul style="list-style-type: none"> DV、虐待からの回復として家族ミーティングや個別対応を通して家族・家庭支援に努め、利用者の安心した養育と自立に向け関係機関と連携した支援に努めた。 家族単位でのお出かけやヨガを実施。要望が寄せられ継続している。 自己回復として自由に過ごせ、語れる場が必要であり心理室「ほっこり室」や「にっこり部屋」が大きな効果を上げている。 アフター支援員を配置し訪問や専用の携帯電話でプラスメッセージを利用し24時間対応している。 		S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯に対し、自立支援のみならず、母子の精神的ケアなどきめ細やかな対応を行っている。 様々な問題を抱えた利用者等、困難なケースに対しても、関係機関との連携により、適切な支援の実施に努めている。 退所者への支援についても、アフター支援員によるきめ細やかな自立支援が行われている。 	S	
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の設定環境から、施設単独の地域支援事業の実施は難しいが、月1回の地域の資源ごみ回収協力や周辺のゴミ拾いを実施。 退所者支援の事業として施設内「習字教室」を退所者も継続できるように地域の施設で開催。 地域貢献として子育て支援やイベントにスタッフとして参加。 関係機関に情報や資源を提供し連携した支援に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能上地域のひとり親家庭に対しての支援事業は難しいが、地域からの相談や支援の要請があり母子生活支援施設の機能を生かし、必要な情報を提供するなど地域貢献やアウトリーチに努めた。 要保護児童対策協議会や社会的養護推進計画等に参加し関係機関と連携しアフター支援に努めている。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 秘匿性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。 退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを実施している。 	A	
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 365日24時間安心できる生活環境の提供に努めた。 利用者の年間在籍207世帯、同伴児346人、計553人の利用。 入所:7世帯24人(前年度8世帯23人) 退所:10世帯27人(前年度7世帯22人) 職員会議・合同処遇会議・ケース検討会・研修など積極的に実施。 福祉サービス第三者評価における自己評価を実施。 利用者アンケート年2回実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者専用の携帯電話を設け24時間対応できる体制を作り支援に努めた。 年に1回生活や今後の見通しについて施設長面接を行い、利用者と一緒に自立支援計画書を作成し支援に努めている。 職員の経験年数に基づき研修計画を立て資質向上に努めている。 第3者評価制度をもとにサービス向上に努めている。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者個々の実情に応じたきめ細やかな支援が行われている。 入所者と常に話し合いを持ち、入所者の意思を尊重しながら、自立に向けた支援を行っている。 	S	
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> 日常の苦情要望にはその都度対応。 利用者アンケートを年2回実施。 母16人(質問12項目:はい152 いいえ10どちらでも11チェックなし12) 子16人(質問4項目:はい25 いいえ3どちらでも10) アンケートの内容や要求に対しては職員会議で協議 検討している。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常の会話や声がけ、関わりなど係性を大事にし必要に応じた家事介入、個別対応の必要性や要求や要望には早期の対応に努めた。 アンケートの要望や意見に対して早急に対応した。 今年度は苦情の申し出はあったが、話し合いにより解決。対応について学んだ。苦情解決制度の利用の申し出はなかった。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者からの要望や苦情に対し、常に誠実な姿勢で迅速な対応に努めている。 	S	
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝見回りで火の元や体調、体温を確認 コロナ感染予防対策のため定例会を個別訪問に代えストーブや電気機器の使用や感染症の予防について周知。 3施設合同の防災会議を開催。防災訓練はコロナ感染防止の機上訓練とした。 遊具点検を3年に1回実施 毎月安全点検を職員が実施。 不審者や追跡者について警察と連携。 		<ul style="list-style-type: none"> 居室の安全管理や携帯電話などの電子機器の使用について利用者に情報を提供し危機管理に努め、感染症については防止、対応について関係機関と情報共有し利用者の健康管理に努め安心した生活の支援に努めた。 防火訓練(不審者訓練)防災訓練など非常時、緊急時を想定し訓練を実施。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応マニュアルの整備や防災訓練の実施等、安全対策が適切に実施された。 訓練方法を工夫し、感染防止に配慮した安全対策に努めている。 	S	
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> 県内外全域の福祉事務所からの相談に応じ緊急に対しては迅速かつ積極的に受け入れた。 アウトリーチとして支援を必要とする方に福祉事務所で直接画像で施設の情報を提供。 関係機関からの相談に資源を提供し連携した支援に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 県内外の福祉事務所からの多数の問い合わせに対して支援力を活かして対応した。 緊急性の高いケースや利用を迷うケースに対して福祉事務所への訪問やオンラインでDVを使い施設の利用について情報を提供した。利用者から「施設のことを知らなかった」という声にアウトリーチとしての情報発信に今後も取り組んでいきたい。 		S	<ul style="list-style-type: none"> 円滑に入所者の受入れを行うよう努めてるとともに、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど、支援の協力を工夫している。 施設の利用促進に向けて、情報発信に積極的に取り組んでいる。 	S	

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	・個人情報保護管理規程や倫理綱領、基本理念の遂行に努め保護に努めている。 ・情報漏洩が起こらないよう関係機関に状況を説明し協力を要請。 ・利用者に自他の安全を守る意味や個人情報の重要性について説明している。	・職員会議で徹底した管理に基づく情報の漏洩防止に努めることを共有し、関係各所と慎重な個人情報の取扱いについて共有した。 ・利用者同士が個人情報を伝えることにより生活が脅かされることを入所面接で伝え「生活を守ること」の理解と協力を求めた。 ・職員の個人情報取り扱いや記憶媒体による持ち出しの取扱いを指導している。	S	・個人情報保護管理規定等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 ・外部に対する情報漏洩防止対策が徹底されている。 ・利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。	S
⑩利用実績	・上記4(1)に記載	・緊急性が高く、身内からの支援が得られない世帯が多く福祉事務所からの入所依頼に対して公平で平等な受入れに努めた。 ・入所実績は昨年同等であった。DVDで施設の支援を紹介しアウトリーチに努め積極的な入所受入れに努めた。 ・多岐にわたる課題について関係機関と連携したケア会議等が利用者の支援、自立に繋がっていることを評価したい。	S	・DV被害者等、様々な入所依頼に適切に対応している。 ・退所実績は入所実績とほぼ同数となり、施設における自立支援の取組の成果とみられる。 ・入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め、支援の充実に取り組まれている。	S
⑪収支実績	・上記5に記載	・職員が職場環境改善に取組み、超勤の軽減や支援の資質向上や管理経費の節約削減など職員の意識改革を行った。 ・家族再構築を目的とした家族単位の行事など家族の楽しみを通しての関係性の変化などを費用対効果と評価したい。 ・コロナ感染防止を徹底し職員の支援力により施設運営が計画通り達成し適切に執行できた。	A	・利用者への支援体制を確保しながら、管理経費等の削減に努めている。	A
⑫その他の取組	・要対協、学校の委員や役員として地域の要保護家庭や要保護児童の支援に協力。 ・大学からの依頼により母子生活支援施設について講義し地域の社会資源としての啓もうに努め、保育実習生を受け入れ人材育成に努めた。 ・ひとり親家庭や機能不全家庭に対して地域からの相談に応じ関係機関と協働しアウトリーチとして情報を提供した。	・アウトリーチとして地域や関係機関に母子生活支援施設の役割を発信することの大事さを利用者から学び、関係機関と協働し地域の福祉資源の活用に取り組んだ。 ・施設全体で保育実習を積極的に受入れ次世代の育成に努めた。 ・環境配慮実践事業の認定を受け環境に配慮した取り組みを施設全体で実践した。	S	・地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。	S
	総合評価	・入所から退所後まで「切れ目のない支援」として職員体制強化としてアフター支援員を配置。通院の同行など利用者の安心感となっている。支援には専門知識を要求され研鑽を積みながら、関係機関と連携し支援に取り組み円滑な施設運営に努めたことを評価したい。 ・コロナ禍で行事を工夫し、オンライン事業の受講など新しい生活様式について取り組むことができた。	S	・DV被害世帯や障害を抱える世帯等、様々な状況の世帯が入所している中、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を最大限行う努力をしており、退所に向けた切れ目のない支援を行っている。 ・また利用者へのメンタルヘルスケアの充実や行事の工夫など、常にサービスの質の向上を考えた取組を行っている。	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	・入所の課題も多岐にわたり発達障害など特性に配慮した支援が必要な利用者も多く専門的知識だけでなく支援に対してのスーパーバイズや職員のメンタルヘルスなど体制の強化が必要であり、利用者が安心して自立を考えられる体制として充実した職員配置と体制について考えていきたい ・経年劣化による居室の設備の交換が必要な箇所が年々増えてきている。	職員の処遇改善について、充実した職員配置と体制を整え、切れ目のない支援及び適切な運営が確保されるよう検討していく。